

第 290 回例会 日本経営倫理学会・理念哲学研究部会 議事録

部会長 村山元理

11月25日(火) 19:00-20:54 オンライン

参加者: 7名

読書会: 先崎彰容『本居宣長「もののあはれ」と「日本」の発見』新潮社、2024年(358頁)

序章は村山が発表。日本は現在西側陣営に属しているが、80年前の東条政権の時は大東亜共栄圏の代表としてアジアの盟主を目指していた。日本は古代から中国から影響を受け、正しい基準の価値観が長く中国であった。江戸時代の伊藤仁斎や徂徠学の影響で国学的な志向性が生まれた。本書では本居宣長の「もののあわれ」を人間関係の愛情から新たに明かし、そこに至る宣長の格闘を明らかにする。

第1章 大木 「第1章「家」と自己像の葛藤—商人、あるいは医師と武士」。商家の跡継ぎとして生まれたが適合せず苦しみ家を捨て、医学の道に進むが、後にルーツが武家であることを知り、自己統一を遂げる章。

第2章 吉留 「第2章 貨幣経済の勃興—学術文化の都への遊学」医学の道へ進み、同時に京都の地で和歌や平安朝のみやびにあこがれる。博物学や芸術など江戸中期の分水嶺にあたり、奇才も多く生まれた。朱子学など学問観の対立、京都の文化、時代背景、宝暦・明和の事件、農本主義から重商主義への変化、貨幣経済が浸透し、社会が二極化するなどの客観的な社会の変化も紹介される。身分よりも個が重視される蘭学や国学から自己の探究が意識されるようになった。

<今後の日程> 第4月曜日、休日の際は翌日の火曜日。

・2026年 2月24日(火) 19:00-20:30 オンライン

読書会: 先崎彰容『本居宣長「もののあはれ」と「日本」の発見』新潮社、2024年(358頁)

4, 5章 本井

7章 倫理学 青木

8章 大木

終章・全体像 望月

・・・A4で1枚程度で要旨を15分以内の発表。